

# '14年度第1四半期決算



2014. 7. 31

## 海外住設事業は好調に推移したものの、 国内住設事業における駆け込み需要の反動影響などにより、増収減益決算

### 【国内住設事業】

- ・消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動及び、システムキッチンの新規受注停止による影響などによって、リモデルは減収減益
- ・新築は前期着工済みの物件需要の継続などによって売上が伸長

### 【海外住設事業】

- ・世界経済は、一部で弱さが見られるものの、全般には緩やかな回復が続いており、全地域で売上が伸長、海外住設事業全体で増収増益

### 【新領域事業】

- ・セラミック事業は半導体市場の回復や光通信市場の活況であることなどを背景に売上が大幅に伸長
- ・環境建材事業は駆け込み需要の反動があり売上が減少

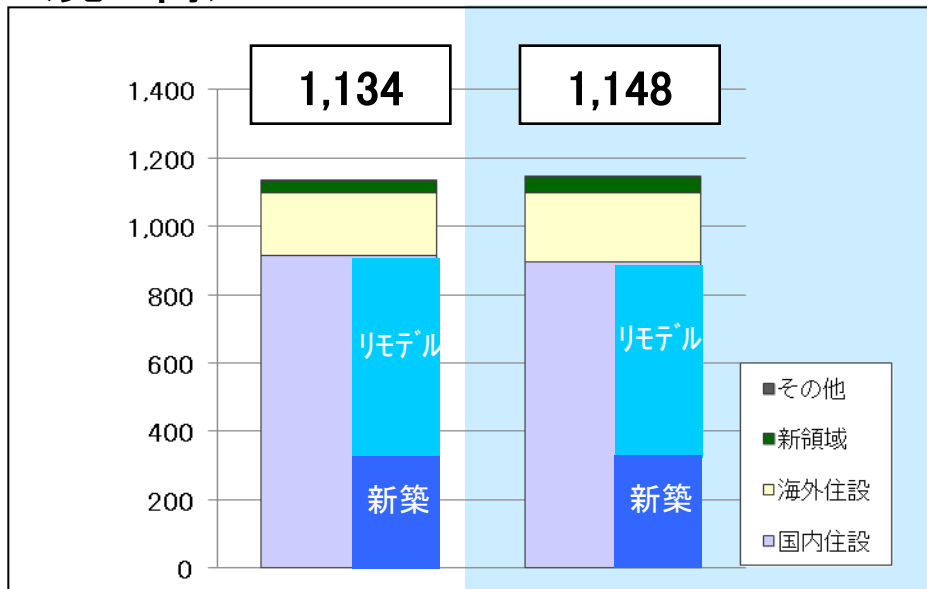
## ■P/L概要

単位：億円(未満は切り捨て)

	'13/10 実績	'14/10		前年比増減 (前年比率)	【ご参考】 前々年比増減 (前々年比率)
		計画	実績		
売上高	1,134	1,180	1,148	+14 (+1%)	+104 (+10%)
営業利益	44	41	38	▲6 (▲14%)	+21 (+115%)
経常利益	61	46	44	▲17 (▲27%)	+22 (+100%)
特別損益	47	0	1	▲46	+10
当期純利益	82	30	29	▲53 (▲64%)	+23 (+389%)

## ■ 需要分野別業績

### <売上高>

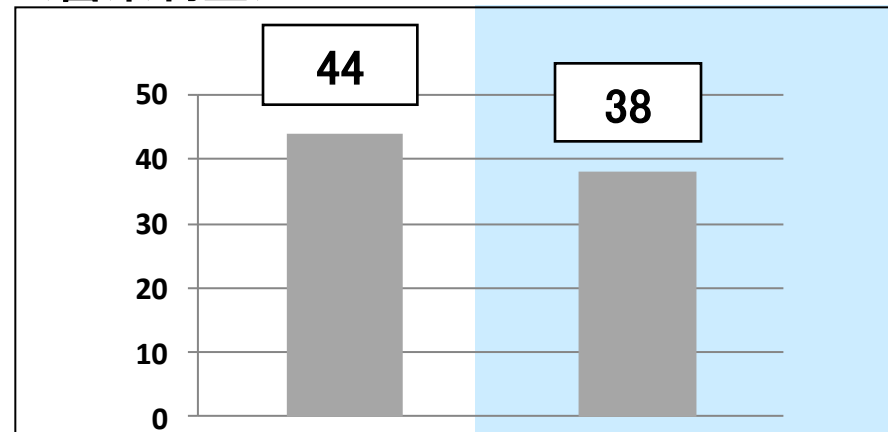


	'13/1Q	'14/1Q	前年比率(%)
国内住設	915	872	▲5%
(リモデル)	619	561	▲9%
(新築)	296	310	+5%
海外住設	182	232	+28%
新領域 ※	36	43	+20%
その他	0	0	+20%

※4月30日に発表した「2014年度計画」では「燃料電池事業」を「新領域事業」セグメントに変更しておりましたが、家庭用燃料電池の普及期に向けた研究開発が続いているため、「その他」に含めております。

### <営業利益>

単位：億円(未満は切り捨て)



	'13/1Q	'14/1Q	前年比増減
国内住設	39	6	▲33
リモデル	31	5	▲26
新築	8	1	▲7
海外住設	22	44	+22
新領域 ※	▲6	▲3	+3
その他	▲11	▲9	+2

海外住設と新領域は好調に推移。リモデルは駆け込み需要の反動及び、システムキッチンの新規受注停止による影響に加え、販売強化投資継続により減収減益

## ■国内住設事業の商品別業績

単位:億円(未満は切り捨て)

	売上高		
	'13/1Q	'14/1Q	前年比(%)
レストルーム計	340	331	▲3%
水栓機器			▲2%
浴室			▲2%
キッチン・洗面			▲20%
バス・キッチン計	507	479	▲5%
その他計	87	81	▲8%
合計(調整前)※	935	892	▲5%
<b>国内住設合計</b>	<b>915</b>	<b>872</b>	<b>▲5%</b>

※セグメント間の内部売上高又は振替高を含みます。

すべての商品で前年割れ

## ■海外住設事業の市場別業績

■現地通貨ベース		売上高			営業利益		
	通貨	'13/1Q	'14/1Q	前年比(%)	'13/1Q	'14/1Q	前年比
米州	百万ドル	57.0	61.5	+8%	1.9	1.8	▲ 0.1
中国	億元	5.9	6.8	+16%	1.2	1.9	+0.7
アジア	百万ドル	33.2	44.0	+33%	5.0	12.3	+7.3
欧州	百万ユーロ	6.9	7.5	+9%	▲ 1.1	▲ 0.8	+0.3

■日本円ベース							
米州	億円	53.6	63.2	+18%	1.7	1.8	+0.1
中国	億円	89.1	113.3	+27%	17.6	31.5	+13.9
アジア	億円	31.2	45.2	+45%	4.6	12.6	+8.0
欧州	億円	8.3	10.5	+27%	▲ 1.3	▲ 1.1	+0.2
計	億円	182.2	232.4	+28%	22.7	44.9	+22.2

為替前提	1ドル	94.1	102.9
	1元	15.2	16.6
	1ユーロ	120.7	141.7

全地域で増収

## ■営業利益の増減益要因(前年差異)

単位:億円(未満は切り捨て)

増減要因				'14/1Q		
<b>国内住設事業合計</b>				<b>▲33</b>		
国内住設事業	プラス要因	コストリダクション	従前のコストリダクション	+9	+15	
			Vプランコストリダクション	+6		
		新築売上高の増加			+3	
	マイナス要因	リモデル売上高の減少			▲21	
		原材料の値上がり			▲5	
		Vプラン投資			▲6	
		販売強化投資			▲7	
		労務費関連の増加			▲7	
普及品市場(ホリウムゾーン)拡大のための対応			▲5			
<b>海外住設事業損益</b>				<b>+22</b>		
<b>新領域事業損益</b>				<b>+3</b>		
<b>その他</b>				<b>+2</b>		
<b>合計</b>				<b>▲6</b>		

## ■今後の販売戦略について

### ショールーム施策

#### ●TDY※福岡コラボレーションショールーム

- ・九州初のコラボレーションショールームを6月21日「キャナルシティ博多」にオープン
- TDY3社連携でグリーンリモデル提案を強化

※TDY=TOTO・DAIKEN・YKK AP



#### ●全国でショールームフェアを展開

- ・新商品フェアやリモデルクラブ店との共催イベントなどを実施



80  
山  
藤子・F・不二雄  
生誕80周年

藤子・F・不二雄生誕80周年記念映画「STAND BY ME ドラえもん」に広告協賛。これに連動し、ショールームで応援キャンペーンを実施

#### ●新商品・品揃え追加

- ・大好評の「サザナ」に上質感ある「タイル調」床を追加
- ・4.8リットルで洗浄できる節水便器「ピュアレストEX」に新洗浄方式を搭載



システムバスルーム「サザナ」

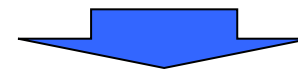


ピュアレストEX

### システムキッチン

#### ●受注停止の経緯

3月に納期遅延が発生したことに伴い、新規受注を停止



7月14日より

新規受注を再開

#### 受注再開に向けた強化施策

- ・生産設備及びシステムの強化
- ・ショールームの展示商品入替
- ・販売網との関係強化





## ■現場採用事例の紹介

「アリーナ・デ・サンパウロ」(ブラジル)  
VIPルーム、観客用など全てのレストルームに採用



## ■ 衛生陶器の新工場が稼動

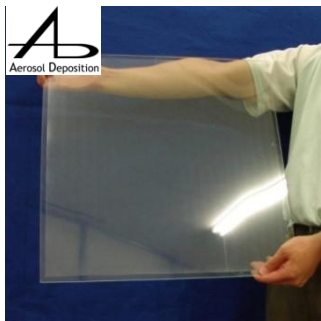


「2014-2017年度 中期経営計画」において、海外住設事業は成長のエンジンと位置付け、海外売上比率を2017年度に24%まで拡大していく計画。  
今後の需要拡大に対応するため、2014年度は中国では8つ目となる福建工場を、インドでは初となる工場をグジャラート州に新設、この7月より稼動を開始。

「2014-2017年度中期経営計画」の成長のエンジンとして、さらなる成長を目指す

## ■「第39回 井上春成賞」受賞

セラミックの常温衝撃固化現象を用いたエアロゾルディポジション技術を、工業製品として世界で初めて実用化に成功したことが評価



**エアロゾルディポジション(AD)法**  
セラミックの微粒子の高速噴射で基材に衝突させることで、基材表面に高緻密・高密着なセラミック膜を形成する技術。本技術は「産業技術総合研究所」との共同により開発・実用化を実現。

### 井上春成賞

(独)科学技術振興機構による、大学・研究機関等の独創的な研究成果をもとに企業が開発・事業化した優れた技術を表彰するもの。

### 技術の背景

情報化社会が進むにつれ、半導体デバイスの細線化がますます加速されることが予測されている。半導体製造にはプラズマが不可欠だが、装置内部がプラズマで傷ついて微小なゴミ(パーティクル)が発生しやすく、生産性向上のためには、プラズマ侵食性に優れた低発塵性部材が求められる。AD法によるイットリア( $Y_2O_3$ )コーティングは、非常に高い耐食性があることが高く評価され、近年、半導体製造装置向けの需要が急増している。

## ■ 戦後日本のイノベーション100選 にウォシュレットが選定



戦後日本のイノベーション100選  
(公)発明協会が創立110周年の記念事業として、戦後日本で成長を遂げ、我が国産業経済の発展に大きく寄与したイノベーションを選定するもの

初代ウォシュレット  
「ウォシュレットG」

### ・選定基準

一般および有識者へのアンケート調査などを参考に、戦後日本で成長を遂げ、我が国産業経済の発展に大きく寄与したイノベーションを選定

### ・評価

一般および有識者アンケートの上位10件のイノベーションとして選定。  
「衛生面での格段の清潔性向上にとどまらず、トイレに関するマイナスのイメージを、快適感を与える空間へと変化させた」ことが評価された。

セラミックによる独創的な技術や  
これまで培ってきたトイレの衛生性やイメージの向上などが評価

このプレゼンテーション資料は、2014年7月31日現在の将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれています。世界経済・競合状況・為替の変動等にかかわるリスクや不確定要因により実際の業績が記載の予測と大幅に異なる可能性があります。

あしたを、ちがう「まいにち」に。

**TOTO**